

【福井県】大野市農業再生協議会



協議会の概要

申請件数・確認面積：
16,000件、2,145ha
主な申請品目：大麦、大豆、そば
協議会事務局：市役所、再生協議会、JA
経安主担当者：市職員1名、
再生協議会3名
JA1名
福井県大野市

現在の現地確認方法の導入経緯

- 紙地図を使用して現地確認を行っていたことから、**地区農業者の準備に係る負担が大きいことが課題。**
- R3年度から紙地図を使用せず、タブレット画面上の地図を用いた現地確認を試験的に実施。
- 実証の結果、紙地図を用いずとも現地確認を行うことが可能であると分かった。
⇒紙地図を廃止し、タブレット地図のみで現地確認することにした。

現地確認の方法（対象筆数：16,000筆）

	導入前（R2年度まで）	現在（R3年度から）
方法	目視（立札、紙地図、野帳）	目視（立札、タブレット地図、野帳）
確認者	地区役員（農業者）、市役所等	地区役員（農業者）、市役所等
時期・回数	5月、7～10月、追加で数回	5月、7～10月、追加で数回
手順	※市役所等…市 ①現地確認説明会の準備開催、立札や紙地図、確認野帳の準備と地区役員への配布（市） ②作物ごとに色分けをした紙地図を準備（地区役員） ③紙地図を基に1筆ごとに目視で確認、立札回収（地区役員） ④確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地は後日再確認（市）	※市役所等…市 ①現地確認説明会の準備開催、立札や紙地図、確認野帳の準備と地区役員への配布（市） ②申請データをタブレット地図に落とし込み（市） ③タブレット地図を基に1筆ごとに目視で確認、立札回収（地区役員） ④確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地は後日再確認（市）
費用	消耗品費：878千円（紙地図等）	消耗品費：354千円（紙地図等） システム費用：290千円 計644千円

導入の効果（メリット）

- 地区役員の紙地図を準備する作業がなくなった。
- 現地確認時のタブレット地図と併せて電子地図を使用するようにしたことで**作業効率化**に繋がった。

～手塗りの地図～



～電子地図～



課題・問題点（デメリット）

- タブレット地図内に手書きでメモを書き込むことができないなど、細かい資料作りが難しい。
- 日常的にスマートフォンを使用していないことが要因で、タブレットや電子データをうまく扱えない場合がある。
- システムの運用の**ランニングコスト**が掛かる。
- 確認作業の手間、時間は変わっていないため、確認作業を省力化する取り組みを行う必要がある。
→立札の省略、一部作物では衛星写真を用いた作付判定等を検討。